



6  
俚語文庫

六

由山崎長政

5  
1139  
6





五子乃在降小者星此社より  
四方の風子に玉奈子とあり  
海をりちちねのれとあり  
此の類

名にる種 皆手解くや葡萄意 一瓢

あるは川を好く酒 一具外

進う世る月に懶釣世流に在し 一具

水を清き心用ふあり川 一具右

小工面のとく年成り甘き亭 逸洲

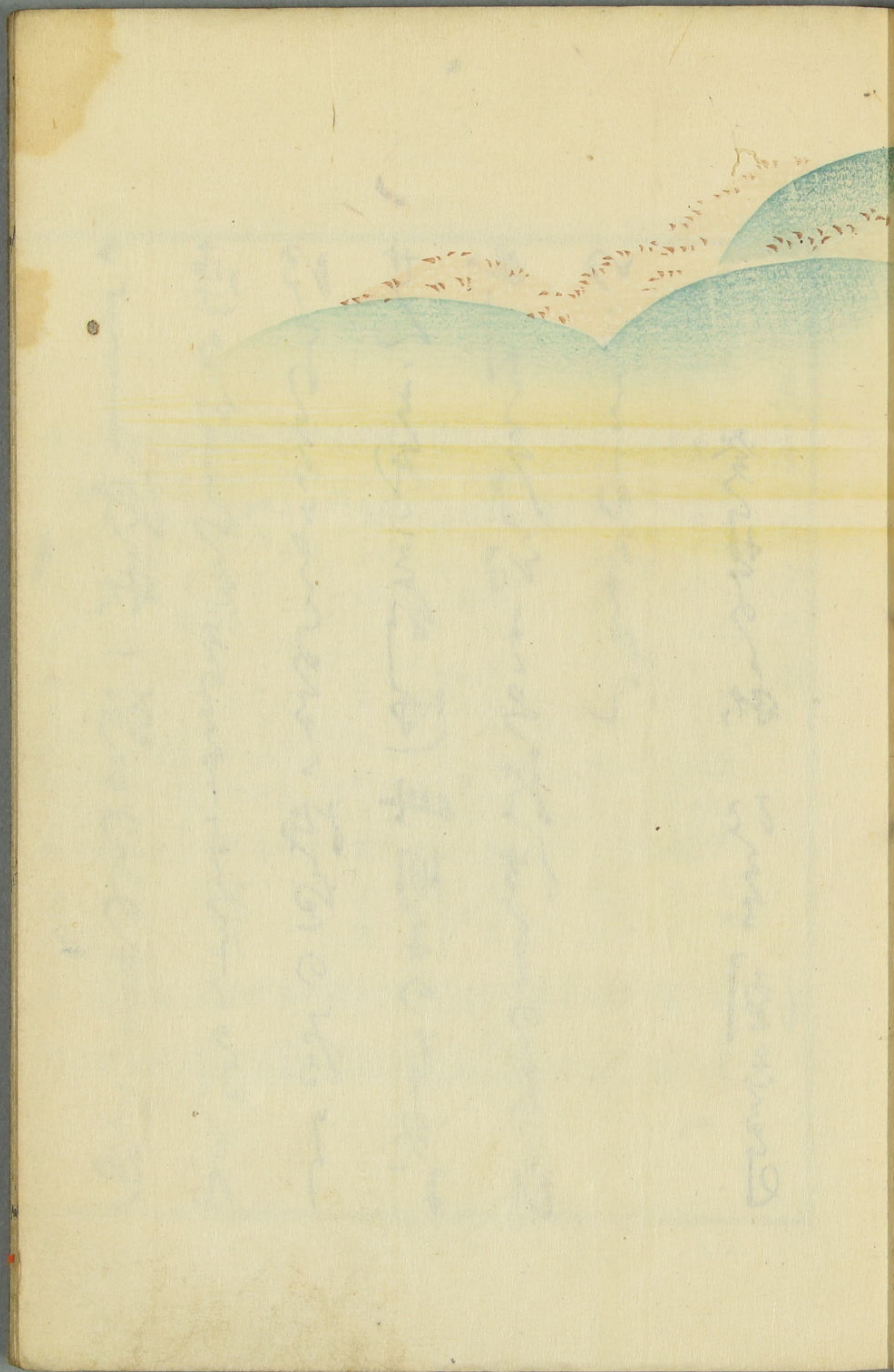
おのゝあふれとく降 多吟

杉	たけり	小	船	と	積	る	は	西
ち	た	た	た	た	た	た	た	西
そ	た	た	た	た	た	た	た	西
は	た	た	た	た	た	た	た	西
は	た	た	た	た	た	た	た	西
有	た	た	た	た	た	た	た	西
觸	た	た	た	た	た	た	た	西
と	た	た	た	た	た	た	た	西

風	何	の	操	み	ら	ぬ	鷗	目	心	惟	仲
白	た	た	た	た	た	た	た	た	た	惟	仲
押	た	た	た	た	た	た	た	た	た	惟	仲
と	た	た	た	た	た	た	た	た	た	惟	仲
草	の	名	や	指	ら	中	み	を	と	由	指

追加

法眼草書正統揮毫



意  
常  
保  
印

















月... 山... 松... 杉... 柏... 榎... 楓... 柳... 竹... 萩... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙...  
 月... 山... 松... 杉... 柏... 榎... 楓... 柳... 竹... 萩... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙...  
 月... 山... 松... 杉... 柏... 榎... 楓... 柳... 竹... 萩... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙...

月... 山... 松... 杉... 柏... 榎... 楓... 柳... 竹... 萩... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙...  
 月... 山... 松... 杉... 柏... 榎... 楓... 柳... 竹... 萩... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙...  
 月... 山... 松... 杉... 柏... 榎... 楓... 柳... 竹... 萩... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙... 菖蒲... 桔梗... 紫陽花... 水仙...





梅嶺の嶺もまたありの態... 文之  
 崖の嶺もまたありの態... 守  
 嶺の嶺もまたありの態... 允  
 嶺の嶺もまたありの態... 折  
 嶺の嶺もまたありの態... 葉  
 嶺の嶺もまたありの態... 樂  
 嶺の嶺もまたありの態... 樂

二月十八日 於南國新橋梅川橋  
 三机披猿撃の... 刺摩上首座

皇躬自稱二句也 註月

梅嶺の嶺もまたありの態... 皇  
 嶺の嶺もまたありの態... 躬  
 嶺の嶺もまたありの態... 自  
 嶺の嶺もまたありの態... 稱  
 嶺の嶺もまたありの態... 二  
 嶺の嶺もまたありの態... 句  
 嶺の嶺もまたありの態... 也  
 嶺の嶺もまたありの態... 註  
 嶺の嶺もまたありの態... 月

嶺の嶺もまたありの態... 皇  
 嶺の嶺もまたありの態... 躬  
 嶺の嶺もまたありの態... 自  
 嶺の嶺もまたありの態... 稱  
 嶺の嶺もまたありの態... 二  
 嶺の嶺もまたありの態... 句  
 嶺の嶺もまたありの態... 也  
 嶺の嶺もまたありの態... 註  
 嶺の嶺もまたありの態... 月

永承五年 秋 井 畫 友 友

一具座撰

天正 亥 貞

地 十六 登

人 十五 和 東

番 亥 十五 辰

大坂 素岡

公定色 里院

下中村 路者

八八 化石

彼林 梅枝

桑中園撰

天正 卯 丸

地 十 高 津

人 十三 國 茂

番 卯 十一 辰

素八 文竹

上井カウラ 節中

比シマ 美丸

下中村 東松

八五子 其木

心守園撰

天正 三 扇

地 二 美 貞

人 二 池 州

番 卯 二十 辰

武川 只川

下中村 羽翔

大坂 梅松

和来

福耳

番 卯 十一 辰

武川 只川

下中村 羽翔

大坂 梅松

和来

福耳

久壽撰 天正 篠 光

地 二 和 月

人 二 山 松

番 卯 十九 辰

一 翠

七 扇

川 志 橋

下中村 東松

是 利

甲子撰 天正 乐 考

地 二 晴 里

人 十 李 佃

番 卯 十七 辰

ス ン フ

大 傳 子

旭 松

三 出

下 中 村

心守園撰 天正 旭 松

地 十七 小 葉

人 十七 心 守

無 題



番

文

七

一

相

芳

九月十六日

柳

妙見山

献額

半部能寫

自圓之空像僅畫

松本董富法眼書

長廿

長六寸

空

武

尺

教之出子之極自廿日

丑之三月十五日金以切

以上日限八十五之寫

向教者万面武十五章

集撰教之真一三子三百

七十五組出向之末子百五

十七人之具返字

無類五百余章之集

濃以美小万多村

久云如香の

打多や箱此少村の

片一町

